

## 読書会「新編武蔵風土記稿Ⅰ」

### ○ 読書会「新編武蔵風土記稿Ⅰ」

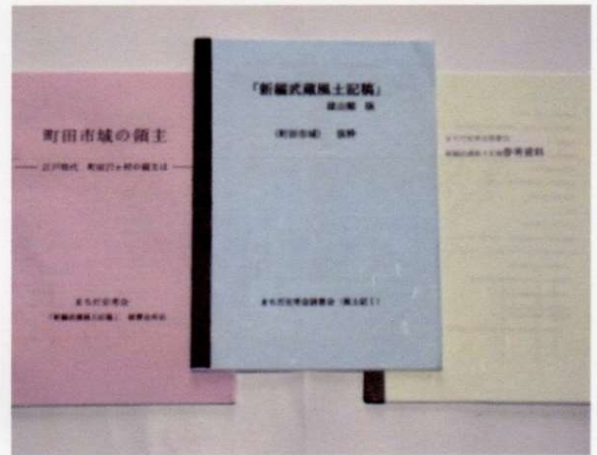
- ・「風土記稿Ⅰ」は、江戸時代の町田市内の27か村を対象にした読書会で、まちだ史考会の読書会では入門(基本)編にあたります。
- ・毎月1か村ずつ約2年間かけて読み進め、当時の村々の様子とその変化を考えます。
- ・発表者の報告のあとに、メンバー20数名による意見交換があつて、様々な意見を聞き、助言を得られるのが一番の魅力です。
- ・読書会は毎月1回(最終月曜日、午前)開催しています。定員 24名。

### ○ 読書会の歴史

- ・1997年(史考会発足3年後)10月に、12名の会員で、史考会最初の読書会としてスタートしました。以後「風土記稿Ⅰ」コースとして回数を重ね、2017年2月より第9回目が始まっています。2019年2月には第9回目が終了し、3月から新規に第10回目がスタートします。

### ○ 使用テキスト類

- ①『新編武蔵風土記稿』(雄山閣版)  
＜町田市域の抜粋＞
- ②「町田市域の領主」  
(まちだ史考会読書会有志 作成)
- ③「読書会参考資料」(読書会作成)



### ○ 『新編武蔵風土記稿』とは

- ・江戸時代後期(文化・文政期)に、幕府が編纂した武蔵国22郡の地誌、全265巻です。
- ・文化7年(1810)から20年の歳月を費やして、天保元年(1830)に完成しました。
- ・多摩郡は八王子千人同心が編纂にあたり、文政5年(1822)に全40巻が完成しました。
- ・村ごとに位置・由緒・領主・高札場・小名・山川・神社・寺院・旧家などが、体系立てて記述され、当時の村の様子を伝える貴重な史料です。